

2 . 流域及び河川の自然環境

2 - 1 流域の自然環境

大淀川は、その源を鹿児島県曽於郡中岳に発し、北流して都城盆地に出、多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、東に転流し岩瀬川等を合わせて高岡町に出、最大の支川本庄川を合わせて宮崎平野を貫流し、宮崎市において日向灘に注いでいる。その流域は、中流狭窄部を境として都城盆地を中心とする上流部、宮崎平野を中心とする下流部に大別される。



流域の地質は、東は鱈塚山系、西は霧島火山部に挟まれ、火山灰土が広く分布しており、各支川はほぼ東西より本川に合流して都城盆地を形成している。中流部は狭谷状を成しており、地質は泥熔岩及びシラスである。下流部は沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成している。

また当流域は、南九州の多雨地域に位置し、さらに上流域の都城盆地を形成しているシラス土壤に起因して豊富な水量に恵まれ、既存の各種用水については安定供給されている。

このような大淀川の流域には、それぞれの流域の気候風土に順応した多種多様な環境が形成され、それにとまなう動植物も多数生息している。

上流域の植生は、草原性が色濃く、チガヤ - ススキ群、ネズミムギ栽培などが河川内を占めて、このような環境の下、小型哺乳類のアカネズミや猛禽類のハイタカなどが河川内で確認されている。

中流域は、日向山地と鰐塚山地に挟まれた山間狭窄部で、そのほとんどが自然のまま残され100～300年クラスの森林も現存している。

県都宮崎市街地の中心部を流れる下流部は、都市化が進み人為的環境が色濃いものの、河口には、魚類相の頂点に位置するアカメが生息し、その生態系を維持するための豊かな生物環境が保持されている。また、まとまったヤナギ林やワンド、人の立ちいれない中州、丸島が残されてサギ類のコロニー、カモ類の休息地、メダカなどの生息地が残されている。また、大淀川河口の砂浜には絶滅危惧 類のアカウミガメが毎年産卵のため上陸し、宮崎県の天然記念物にも指定されている。

大淀川最大の支川本庄川流域は、日本有数の「原生の照葉樹林帯」を上流域に抱え、生物の生息環境を見ても、他の流域（上・中・下流）とは比較にならないほど優れている。水際には河跡湖が点在し、ミズキンバイ（絶滅危惧 A類）、ホザキモフサモ群落、メダカ（絶滅危惧 類）、カヤネズミなど豊かな生物相を成している。

2 - 2 河川の自然環境

1) 源流及び上流部

大淀川の源流部は、鰐塚山地の南東部でスギ・ヒノキ等の人工林で覆われ、そこにはあまり高い山地はなく、400～500m級の台地や丘陵がその水源となっている。



大淀川源流域を望む

また、上流部を形成している都城市を中心とした都城盆地は、鰐塚山地と霧島火山との間にあり、盆地内にはかなり広い段丘と沖積地とが発達している。



山地に囲まれた都城盆地

畜産の盛んな都城盆地では、河川の高水敷は牧草の生産の場所として有効に利用され、草原性の植生が色濃く、チガヤ - ススキ群落、キンエノコロ - メヒシバ群落、ネズミムギ栽培などが広い面積を占めている。水際の植生は、オギ、ツルヨシなどが覆い、広大な高水敷には、ヒメネズミ、アカネズミ、コウベモグラ、ノウサギなどの哺乳類が多く生息している。鳥類では、土の剥き出しとなっている自然河岸にカワセミ、ヤマセミが、オギ植生の中にバン、ヒクイナ、また猛禽類のハイタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサなどが確認できる。魚類では、コイを代表に自然河岸の流れの緩やかな水際には、メダカ（絶滅危惧類）、ヤマトシマドジョウ、モツゴ、ドンコの魚が生息している。



コイ

日本全国に分布し、大淀川全域に広く分布している。
大淀川では、水深50cmぐらいのヨシの自然河岸に多く生息する。



ヤマトシマドジョウ

九州と山口県に分布し、大淀川では、本庄川の6k500付近及び上流域（都城市）で確認されている。
大淀川において数尾しか確認されていない。



ヤマセミ

北海道から九州まで各地に留鳥として分布し、大淀川では上流域をはじめほぼ全域で確認されている。
瀬・淵など変化に富んだ河川環境が形成されているところで確認できる



カワセミ

全国各地に分布し、大淀川でもほぼ全域で確認されている。
山地から平地の川、池、湖などの水辺に単独又はつがいで生息している。

大淀川上流域を代表する河川景観
オギ・ツルヨシ等の植生が広がっている。



2) 中流部

都城盆地と宮崎平野を結ぶ日向山地と鰐塚山地に挟まれた中流狭窄部は、豊かな自然が残されており、自然林と人工林が混在する険しい地形である。



山地に挟まれた、中流狭窄部を望む

この区域では、宮崎の河川を代表する大淀川本来の原風景を見ることができる貴重な区域である。また、場所によっては、樹齢100～300年の森林風景を見る事が出来る区域である。これらの河畔林は、木陰の創出や鳥類のねぐら、鳥類の餌としての落下昆虫の供給場所などとして、河川の生態系の維持に重要な役割を果たしている。狭窄部をぬって流れてくる大淀川中流域は広い高水敷や低水敷はほとんど見られない。植生的には、スダジイ、ヤブツバキ、タブノキなどを中心としたミミズバイ - スダジイ群落等の山地型植生が両岸までせまっている。また魚類ではアユカケ（カマキリ）、ボウズハゼ、ウナギ等の回遊型をはじめ、オイカワ、カワムツB型、コイなどが生息している。



河畔林は河川の生態系の維持に重要な役割を果たしている



アユカケ（カマキリ）

日本固有種で、日本海側は秋田県以南、太平洋側は神奈川県以南の各地に分布し、大淀川では、大淀川中流域や本庄川に生息する。
河床が礫の区域でよく捕獲される。



ボウズハゼ

関東地方以西の太平洋側から琉球列島に分布し、日本海側では見られない。大淀川流域では、大淀川中流域と綾北川で確認されている。上流域（都城地方）では確認されない。
流れの緩いところから速い水域まで、幅広く棲む。



マガモ

日本の大部分の地域に冬鳥として渡来する。大淀川全域にも冬鳥として飛来する。中流域の流れの緩やかなところやワンド等で、群れをなして休息している光景を見かける。

3) 下流部

(1) 大淀川



大淀川河口（宮崎市街部中心を流れる）

下流部高岡付近にて宮崎平野に入る下流部は、宮崎市街地中心部を貫流しており、高水敷は親水公園やゴルフ場、運動公園等に整備され、市民に親しまれている。さらに、大淀川下流左岸部の河畔には観光ホテル群があり、「観光宮崎の顔」として県内外の観光客でにぎわっている。



橘公園

宮崎市街地の中心を流れる大淀川の河川環境は、高水敷では市民のスポーツ、休息、イベント等に多く利用され、人工的に改変された河川空間である。しかしこのような河川環境の中でも、河口付近に位置する中州、通称「丸島」は、市街地の中心にありながら人為的改変から逃れ、植生的には極相に適し、ヤブニッケイ - タブノキ群落、ホテイチク林からなり、景観的にうっそうとした森林となっ

ている。さらに、これらは野鳥にとっても貴重な地域で、コサギ、ゴイサギをはじめとするサギ類のコロニーを確認する事ができる。またその他の野鳥、カワウ、ミサゴ（準絶滅危惧）の休息、生息地としても重要な箇所となっている。



丸島

魚類ではアカメの生息地としても全国的に有名である。これは、夏の時期になると表われるコアマモ（植物）が丸島周辺や右岸、津屋原池（通称タンポリ）に生息していることが要因で、アカメの稚魚、幼魚をはじめ、スズキなどの生息場となっている。また、河口より10k000左岸付近は、ジャヤナギ - アカメヤナギ群落を中心に植生豊かな中州、ワンドにより物理的に緩流域、止水域が形成され遊泳力に弱いメダカ（絶滅危惧 類）や、オイカワの稚魚の生息場となっている。河口左岸では、日向灘に直接面した砂浜の海岸が広がり、近年減少傾向にあるアカウミガメの産卵場として、毎年、6月～9月に出現が確認されている。



アカメ（準絶滅危惧）

日本固有種で、宮崎県と高知県の大きな河川の河口付近及び、その近海のみ分布する。大淀川の丸島周辺、八重川津屋原池周辺に生息している。



スズキ

日本各地に分布し、大淀川では河口から中流域、大淀川第二発電所（29k000）付近まで確認される。

外海で産卵し孵化した仔魚は浮遊生活を送り、幼魚期になると津屋原池（タンポリ）や丸島周辺のコアモ場にすみつく。アユの遡上期にはアユを追って河口から上流へのぼる。秋には再び海に下る。



カワウ

大淀川河口、丸島付近に集団で生息しており、昼は水際の水制杭にとまっているのがよくみられる。



ミサゴ

季節に関係なく大淀川河口域、特に丸島で確認されている。魚食性のため河口に生息するボラ・スズキ等と餌として生息している

(2) 本庄川

九州山地内部の深い峡谷を抱え、1,000m級の山々をその水源とする本庄川は、豊富な森林資源に恵まれ九州屈指の清流河川ともなり、それに伴う豊かな自然の生態系が営まれている。さらに、原生の照葉樹林帯を有する綾町では、自然を生かした町づくりが行われている。



本庄川の照葉樹林

上流域の照葉樹林帯を抱える本庄川流域では、川が自由に蛇行・侵食・堆積することのできる遊水域（低水敷）が川幅広く広がっており、このことは河跡湖やワンドが形成されやすく、河川本来のあるべき環境を成している。



本庄川合流点



河跡湖やワンド

本庄川5k000～6k000間は特に色濃く出ており、点在する河跡湖やワンドには、植物のミズキンバイ（絶滅危惧ⅠA類）を始め、ヨシ、ツルヨシ、オギなどの優れた河辺植生環境を有し、本庄川12k600付近には沈水植物のホザキフサモ - オオカナダモ群落が繁茂している。また魚類では、ナマズ、カマキリ、モツゴ、ヤマトシマドジョウ、メダカ、ボウズハゼ、などが確認されている。鳥類ではヤマセミ、バン、ウズラ、コアジサシを確認できる。河川の自由度が高い本庄川は瀬や早瀬、淵が常に入れ変わり、同時に浮石の多い河床を形成しアユの産卵場も所々に見られる。またこの流域は景観的に優れ、河川の前風景がまとまって残されている。



アユ

回遊性のアユは、北海道西部以南の日本各地に分布する。大淀川では漁協による放流が行われているため、上流から下流まで確認することができる。
天然アユは高岡ダムまでしか遡上できない。



ミズキンバイ（絶滅危惧ⅠA種）

北海道、本州、四国、九州で見られる。大淀川流域では、本庄川5k000～6k000に点在する河跡湖またはワンドに生育している。
若干の水の循環、水がある程度貫流するような環境が必要。

4) 大淀川の自然環境

大淀川の自然環境を把握するために、河川水辺の国勢調査を主に文献、ヒアリング等のデータを踏まえ大淀川に生息する特定種・外来種についてとりまとめた。

特定種・・・環境省レッドリスト，または宮崎県版レッドデータブック掲載種

外来種・・・大淀川の在来種の生息生育を脅かす種

重要



特定種カテゴリーの説明		
区分	環境省レッドリストより	宮崎版レッドデータブックより
E X	絶滅	絶滅
	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	宮崎県ではすでに絶滅したと考えられるもの
E W	野生絶滅	野生絶滅
	我が国において野生ではすでに絶滅したと考えられる種	宮崎県において野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
C R	絶滅危惧 I A 類	絶滅危惧 I A 類
	絶滅の危機に瀕している種	宮崎県において絶滅の危機に瀕しているもの
E N	絶滅危惧 I B 類	絶滅基部 I B 類
	絶滅危惧 I A 類ほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種	宮崎県において絶滅危惧 I A 類ほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
V U	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
	絶滅の危機が増大している種	宮崎県において絶滅の危機が増大しているもの
N T	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	存続基盤が脆弱な種	宮崎県において種の存続への圧迫が強まっているもの
D D	情報不足	情報不足
	評価するだけの情報が不足している種	宮崎県においてランク判定するに足る情報が不足している種

(1) 大淀川に生息，生育する重要な種

大淀川に生息，生育する重要な生物としては，次表の特定種一覧表に示すとおりである。特定種は，魚介類 8 種，植物 7 種，鳥類 9 種，両生類・爬虫類・哺乳類 3 種，陸上昆虫 2 種である。

大淀川で確認された魚介類の特定種一覧表

区分	種名	種別	確認地点
魚 介 類	アカメ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 絶滅危惧 類	汽水域
	アリアケギバチ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 絶滅危惧 I A 類	中流域
	カマキリ (アユカケ)	宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・下流域・ 本庄川流域
	カワアナゴ	宮崎県 情報不足	汽水域・下流域
	ナマズ	宮崎県 準絶滅危惧	下流域・上流域・ 本庄川流域
	メダカ	環境省 絶滅危惧 類 宮崎県 絶滅危惧 類	下流域・上流域・ 本庄川流域
	モツゴ	宮崎県 情報不足	下流域・上流域・ 本庄川流域
	ヤマトシマドジョウ	宮崎県 情報不足	上流域・本庄川流域

大淀川で確認された植物の特定種一覧表

区分	種名	種別	確認地点
植 物	ウキヤガラ	宮崎県 絶滅危惧 I A 類	本庄川流域
	カワヂシャ	環境省 準絶滅危惧	下流域・上流域
	ゲンバイヒルガオ	宮崎県 絶滅危惧 類	汽水域
	ゴマクサ	環境省 絶滅危惧 I B 類 宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	タコノアシ	環境省 絶滅危惧 類 宮崎県 絶滅危惧 類	汽水域・下流域・ 本庄川流域
	ミズキンバイ	環境省 絶滅危惧 I A 類 宮崎県 絶滅危惧 I A 類	本庄川流域
	ミゾコウジュ	環境省 準絶滅危惧	汽水域・下流域・ 上流域・本庄川流域

大淀川で確認された鳥類の特定種一覧表

区分	種名	種別	確認地点
鳥類	ウズラ	環境省 情報不足 宮崎県 準絶滅危惧	下流域・上流域・ 本庄川流域
	オジロトウネン	宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	コアジサシ	環境省 絶滅危惧 類 宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・下流域・ 上流域・本庄川流域
	コノハズク	宮崎県 絶滅危惧 類	下流域
	ハイタカ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	ハヤブサ	環境省 絶滅危惧 類 宮崎県 準絶滅危惧	下流域・上流域
	ヒクイナ	宮崎県 準絶滅危惧	上流域
	フクロウ	宮崎県 絶滅危惧 類	下流域
	ミサゴ	環境省 準絶滅危惧 宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・下流域

大淀川で確認された両生類・爬虫類・哺乳類の特定種一覧表

区分	種名	環境省	確認地点
両生類	トノサマガエル	宮崎県 準絶滅危惧	汽水域・本庄川流域
爬虫類	アカウミガメ	環境省 絶滅危惧 類 宮崎県 準絶滅危惧	汽水域
哺乳類	ジネズミ	宮崎県 情報不足	下流域・本庄川流域・ 上流域

大淀川で確認された陸上昆虫類の特定種一覧表

区分	種名	種別	確認地点
陸上昆虫	アオカナブン	宮崎県 準絶滅危惧	下流域
	モートンイトトンボ	宮崎県 絶滅危惧 類	本庄川流域

(2) 大淀川に生息，生育する外来種

大淀川に生息，生育する外来種としては，次表の外来種一覧表に示すとおりである。外来種は，魚介類4種，植物9種，両生類・爬虫類・哺乳類2種，陸上昆虫1種である。

大淀川で確認された外来種一覧表

区分	種名	確認地点
魚介類	オオクチバス(ブラッバス)	汽水域・下流域
	ブルーギル	下流域・中流域
	タイリクバラタナゴ	下流域・上流域・本庄川流域
	アメリカザリガニ	上流域
植物	オオブタクサ	下流域
	セイタカアワダチソウ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	ハルシャギク	下流域
	タチスズメノヒエ	下流域・上流域
	アメリカスズメノヒエ	汽水域
	アメリカカンザシ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	オオカナダモ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	シナダレスズメガヤ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
	ヤナギハナガサ	汽水域・下流域・上流域・本庄川流域
両生類	ウシガエル	下流域・上流域
爬虫類	ミシシッピ-アカミミガメ	上流域
陸上昆虫	アルファルタコゾウムシ	中流域・上流域

(4) 文献一覧表

	文 献 名	関連項目
1	1998年7月4日 宮崎日日新聞掲載記事	魚類
2	西高岡中学校(1951) 西高岡中学校教育報告書	魚類
3	平成3～4年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系魚介類調査	魚介類
4	平成8～9年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系魚介類調査	魚介類
5	山と溪谷社(1990) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚	魚類
6	益田 一 他 東海大学出版会(1988) 日本産魚類大図鑑	魚類
7	平成10年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
8	平成11年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
9	平成12年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
10	平成 9年度 多自然型川づくり調査	魚類・植物・底生動物
11	小学館(1985) 自然観察シリーズ22 日本の両生類・爬虫類	両生類・爬虫類・哺乳類
12	平成10年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類・爬虫類・哺乳類
13	平成 5年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類・爬虫類・哺乳類
14	平成11～12年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系植物調査	植物
15	平成4～5年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系植物調査	植物
16	平凡社(1985) フィールド版 日本の野生植物 草本	植物
17	平凡社(1993) フィールド版 日本の野生植物 木本	植物
18	北隆館(1989) 改訂増補 牧野新日本植物図鑑	植物
19	財団法人リバーフロント整備センター編(1996) 川の生物図典	全般
20	平成 8年度 大淀川河川生態系調査	全般
21	宮崎県版レッドデータブック作成検討委員会(2000) 宮崎県版レッドデータ 宮崎県の保護上重要な野生生物	全般
22	母なる川大淀川パンフレット	全般
23	平成4年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系底生動物調査	底生動物
24	平成8～9年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系底生動物調査	底生動物
25	平成12年度 河川水辺の国勢調査 小丸川水系底生動物調査	底生動物
26	谷章三 トンボ出版(1996) 水生昆虫の観察	底生動物
27	谷田一三監修 全国農村教育協会(2000) 原色 川虫図鑑	底生動物
28	平成12年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系鳥類調査	鳥類
29	平成12年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系鳥類調査	鳥類
30	平成6～7年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系鳥類調査	鳥類
31	山と溪谷社(1998) 山溪ハンディ図鑑 日本の野鳥	鳥類
32	阿部 永 他 財団法人自然環境研究センター(1994) 日本の哺乳類	哺乳類
33	平成7～8年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系陸上昆虫調査	陸上昆虫類
34	東海大学出版会(1994) ヤマケイポケットガイド9 チョウ・ガ	陸上昆虫類
35	平成3～4年度 河川水辺の国勢調査 大淀川水系陸上昆虫調査	陸上昆虫類
36	今森光彦 山と溪谷社(1999) ヤマケイポケットガイド 野山の昆虫	陸上昆虫類
37	H11 大淀川瓜生野地区生態系調査 株式会社 建設技術研究所	全般

2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

1) 観光及び景勝地

流域内には2つの国立・国定公園及び2つの県立自然公園があり、支川庄内川上流にある甌穴群や関之尾の滝、綾南川上流のままこ滝、岩瀬川上流の三之宮峡等の景勝地が数多く点在し、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わいを見せる。



関之尾の滝と甌穴

日本の滝100選にも選ばれた関之尾滝は、幅40m、高さ18mにも及ぶ大滝、そして木々の間から流れ落ちる男滝、女滝の3つの滝からなる。

流れる水の力が、川底の小石や岩石の破片を回転させることによりできた穴である関之尾甌穴群（天然記念物）は世界最大級の規模であり、地質学上でも貴重な資料とされている。

（出典：宮崎工事事務所）



三之宮峡

岩瀬川上流で約4km続く谷間にある。アユやニジマスが泳ぐ透き通った川の周りには、そびえ立つ高さ30mの“びょうぶ岩”や30畳ほどの広さをもつ“カップ洞”などユニークな景観を持つ。

（出典：宮崎工事事務所）



長田峡

沖水川の上流10kmにわたる深い谷間にある。春には山桜が、秋には紅葉も楽しめ、清らかな水にはヤマメやウグイが泳いでいる。

(出典：宮崎工事事務所)



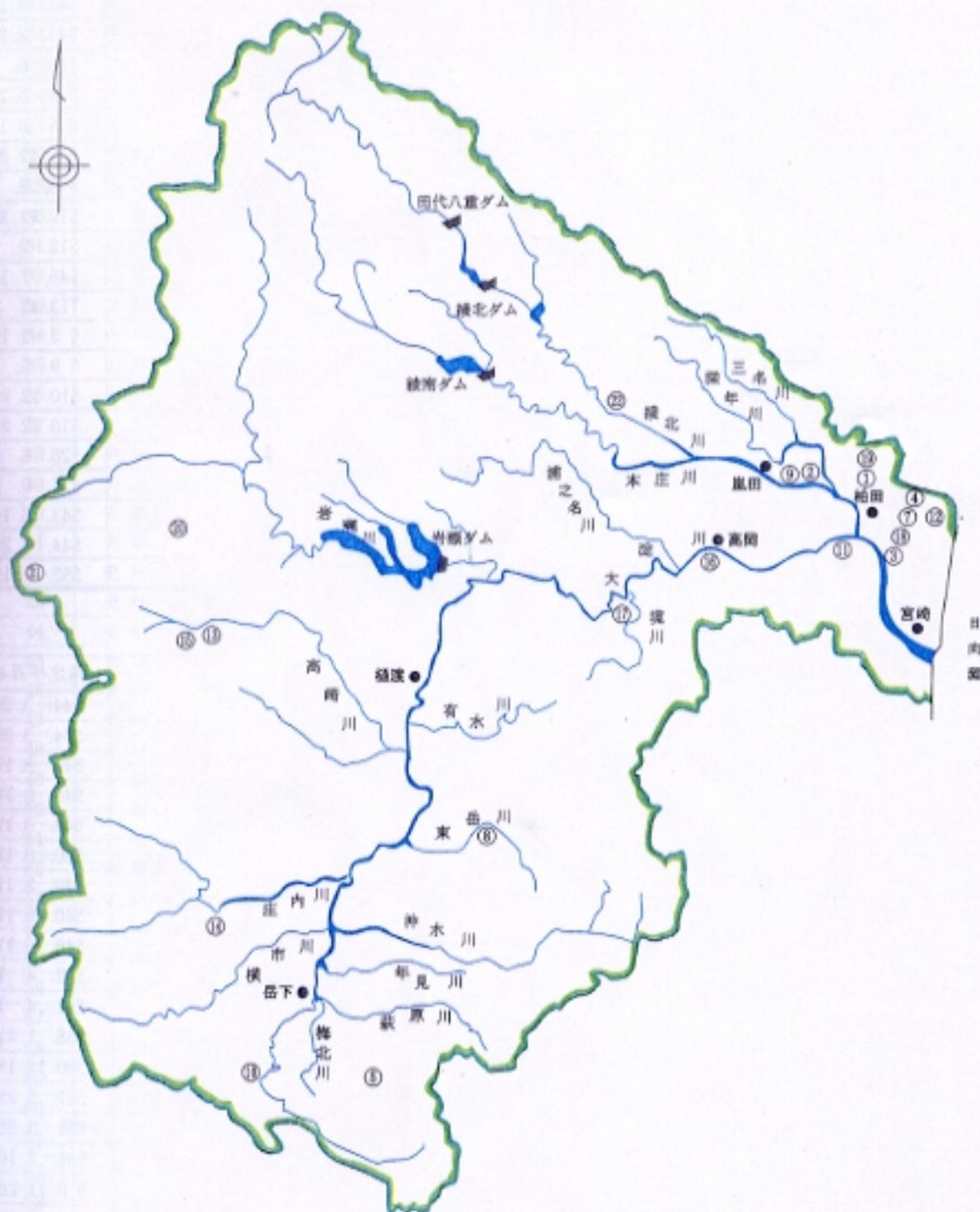
ままこ滝

季節ごとに、ちがう風景をみせる森が、深みのある色合いの水をたたえる小野湖の水面に映え、その奥にはしづきをあげて流れ落ちる名滝の景観。昭和8年には「須木の滝」として県の名勝に指定されています。

(出典：宮崎工事事務所)

2) 文化財

大淀川流域には歴史的に重要な文化財・史跡が多く、表2-1に示すとおり国指定で22件、県指定で74件もの文化財が存在する。



注) 番号は、表2-1(1)大淀川流域内文化財一覧表(国指定)中の番号を示す。

図2-1 大淀川流域内国指定文化財位置図

表2-1(1)

大淀川流域内文化財一覧表

(1) 国指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	重文	木造薬師如来及び両脇侍像（三軀）	宮崎市（王楽寺）	S19. 9. 5
2	重文	木造阿弥陀如来及び両脇侍像（三軀）	国富町（万福寺）	S19. 9. 5
3	重文	旧黒木家住宅	宮崎市（県総合博物館）	S48. 2.23
4	重文	旧藤田家住宅	宮崎市（県総合博物館）	S48. 2.23
5	重文	興玉神社内神殿	都城市（興玉神社）	S58. 6. 2
6	重文	紺糸威紫白肩裾胴丸大袖付	都城市（都城歴史資料館）	H 6. 6.28
7	重有	日向の山村生産用具（2,260点）	宮崎市（県総合博物館）	H 5. 4.15
8	重無	山之口の文弥人形	山之口町（麓文弥節人形浄瑠璃資料館）	H 7.12.26
9	史跡	本庄古墳群	国富町	S 9. 8. 9
10	史跡	今町一里塚	都城市	S10.12.24
11	史跡	生目古墳群	宮崎市	S18. 9. 8
12	史跡	蓮ヶ池横穴群	宮崎市	S46. 7.17
13	天	狭野スギ並木	高原町（狭野神社）	T13.12. 9
14	天	関之尾の甌穴	都城市関之尾町	S 3. 2.18
15	天	狭野神社ブッポウソウ繁殖地	高原町（狭野神社）	S 9. 5. 1
16	天	高岡の月知梅	高岡町	S10.12.24
17	天	去川のイチヨウ	高岡町	S10.12.24
18	天	宮崎神宮のオオシラフジ	宮崎市（宮崎神宮）	S26. 6. 9
19	天	瓜生野八幡神社のクスノキ群	宮崎市（瓜生野八幡神社）	S26. 6. 9
20	天	エヒメアヤマメ自生南限地帯	小林市	S43. 6.14
21	天	甌岳針葉樹林	えびの市	S44. 8.22
22	天	竹野のホルトノキ	綾町	S52. 2.17

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所在地	指定年月日
1	重文	木造弘法大師坐像	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
2	重文	神面	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
3	有文	木造阿弥陀如来座像（一軀）	宮崎市（県総合博物館）	S40. 8.17
4	有文	木造薬師陀如来座像（一軀）	宮崎市（県総合博物館）	S40. 8.17
5	有文	木造薬師如来及び両脇侍像（三軀）	国富町（法華嶽薬師寺）	S40. 8.17
6	有文	須弥壇（一基）	国富町（法華嶽薬師寺）	S40. 8.17
7	有文	朱塗丸盆（四枚）	都城市（郷土館）	S40. 8.17
8	有文	六地藏幢	小林市	S40. 8.17
9	有文	木造阿弥陀如来座像（一軀）	綾町（川中神社）	S46. 6.11
10	有文	米良の民家	宮崎市（県総合博物館）	S52. 4. 1
11	有文	椎葉の民家	宮崎市（県総合博物館）	S52. 4. 1
12	有文	土持文書	宮崎市（県総合博物館）	S58. 1.21
13	有文	東霧島の梵鐘	高崎町（東霧島神社）	S60.12.17
14	有文	木造薬師如来座像（一軀）	国富町（三弓堂）	S61. 3.25
15	有文	木造聖観音菩薩座像（一軀）	国富町（三弓堂）	S61. 3.25
16	有文	男神像及び女神像（四軀）	都城市美川町	S34. 7.10
17	有文	兼喜神社社殿	都城市都島町	H 6.11.28
18	無民	輪太鼓踊	小林市	S37. 5.15
19	無民	バラ太鼓踊	国富町	S37. 5.15
20	無民	菰川神楽	高原町	S44. 4. 1

(凡例) 重文：重要文化財

重有：重要有形民俗文化財

無民：無形民俗文化財

重無：重要無形民俗文化財

重：重要無形文化財

有文：有形文化財

天：天然記念物

注) 2001年版宮崎県観光要覧(平成13年3月：宮崎県)より。

表2-1(2)

大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
21	無民	山之口麓文弥節人形浄瑠璃	山之口町	S47. 8. 5
22	無民	熊襲踊	都城市	S47. 9.26
23	無民	山之口弥五郎どんまつり	山之口町	H 2. 3.27
24	無民	高木の揚げ馬	都城市	H 6. 3.25
25	無民	花木あげ馬	山之口町	H 6. 3.25
26	無民	穂満坊あげ馬	高城町	H 6. 3.25
27	無民	末吉住吉神社の流鏝馬	鹿児島県末吉町二之方住吉	S56. 3.27
28	無民	末吉町熊野神社の鬼追い	鹿児島県末吉町深川	H 6. 3.16
29	無民	西米良神楽	西米良村	H 9. 3.18
30	史跡	去川の関跡	高岡町	S 8.12. 5
31	史跡	刀工田中国広宅跡	綾町	S 8.12. 5
32	史跡	本庄の石仏	国富町	S 8.12. 5
33	史跡	谷村計介旧宅	宮崎市	S 8.12. 5
34	史跡	何欽吉墓	都城市	S 9. 4.17
35	史跡	伊東塚	小林市	S 9. 4.17
36	史跡	祝吉御所跡	都城市	S 9. 4.17
37	史跡	紙屋池の原一里塚	野尻町	S11. 7.17
38	史跡	紙屋漆野原一里塚	野尻町	S11. 7.17
39	史跡	石器時代住居跡尾平野洞窟	都城市	S32.12.15
40	史跡	東麓石窟仏	野尻町	S32.12.15
41	史跡	本田遺跡	小林市	S51. 3.26
42	史跡	赤江町古墳	宮崎市	S 8.12. 5
43	史跡	野尻町古墳	野尻町	S 8.12. 5
44	史跡	綾町古墳	綾町	S 8.12. 5
45	史跡	倉岡村古墳	宮崎市	S 8.12. 5
46	史跡	都城市古墳	都城市	S 9. 4.17
47	史跡	志和池村古墳	都城市	S 9. 4.17
48	史跡	須木村古墳	須木村	S 9. 4.17
49	史跡	八代村古墳	国富町	S 9. 4.17
50	史跡	高城町古墳	高城町	S10. 7. 2
51	史跡	都城市沖水古墳	都城市	S11. 7.17
52	史跡	山之口村古墳	山之口町	S11. 7.17
53	史跡	木脇村古墳	国富町	S11. 7.17
54	史跡	宮崎市大淀古墳	宮崎市	S12. 7. 2
55	史跡	木花村古墳	宮崎市	S12. 7. 2
56	史跡	住吉町古墳	宮崎市	S19.12.15
57	史跡	本庄町古墳	国富町	S19.12.15
58	史跡	小林町古墳	小林市	S14. 1.27
59	史跡	宮崎市下北方古墳	宮崎市	S14. 4.21
60	史跡	高岡町古墳	高岡町	S17. 6.23
61	史跡	高崎町古墳	高崎町	S17. 6.23
62	史跡	生目村古墳	宮崎市	S19.12.15
63	史跡	高原町古墳	高原町	S19.12.15
64	史跡	瓜生野村古墳	宮崎市	S19.12.15
65	史跡	池内横穴	宮崎市	S47. 5.26

(凡例) 重文：重要文化財

重有：重要有形民俗文化財

無民：無形民俗文化財

重無：重要無形民俗文化財

重：重要無形文化財

有文：有形文化財

天：天然記念物

注) 2001年版宮崎県観光要覧(平成13年 3月：宮崎県)より。

表2-1(3)

大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
66	史跡	船塚古墳	高原町	S52. 4. 1
67	天	大師のコウヤマキ	熊本県多良木町槻木	S44. 3.20
68	天	溝ノ口洞穴	鹿児島県財部町大塚厚	S30. 1. 4
69	名勝	須木の滝	須木村	S 8.12. 5
70	天	森永の化石群	国富町	S12. 7. 2
71	天	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎市(延岡市,日南市)	S55. 6.24
72	天	綾のイチノガシ	綾町	S60. 1. 4
73	天	天林寺のオハツキチヨウ	宮崎市(天林寺境内)	S60.12.17
74	天	山田のイチヨウ	山田町	S14. 1.27

(凡例) 重文：重要文化財 重有：重要有形民俗文化財 無民：無形民俗文化財
 重無：重要無形民俗文化財 重：重要無形文化財 有文：有形文化財
 天：天然記念物

注) 2001年版宮崎県観光要覧(平成13年 3月：宮崎県)より。



高岡町去川の大イチヨウ(国指定天然記念物)

樹齢800年、幹周約10m、高さ約41mの古木で、島津家初代忠久公が薩摩街道のこの地に植えたと伝えられている。



興玉神社内神殿(国指定重要文化財)

宮崎県最古の建造物であり、その様式は、禅宗様(唐様)といい、禅宗とともに寺院建築の新様式として、中国大陸から鎌倉時代に伝来し、日本全土に広まっている。



蓮ヶ池横穴群(国指定史跡)

市街北方の国道10号沿い、小池の散在する丘陵地の斜面にある。6,7世紀ごろの築造と見られる横穴古墳が、現在82基確認されており、この地方の古代を知るうえでの貴重な史料となっている。

2 - 4 自然公園等の指定状況

大淀川流域は、自然環境に恵まれた地域が多く、図2 - 2 ~ 3 に示すように自然公園及び鳥獣保護区域が設定されている。

表2-2 大淀川流域に係る規制状況一覧表

関係するまたは予想される法令等の規制状況リスト		
規制項目	関連法令	概要
霧島屋久国立公園	自然公園法	昭和9年3月16日指定 12,870(ha)
九州中央山地 国定公園	自然公園法	昭和57年5月15日指定 12,480(ha)
わにか県立 自然公園	県自然公園条例	昭和36年3月31日指定 4,700(ha)
母智丘・関之尾 県立自然公園	県自然公園条例	昭和33年9月1日指定 560(ha)
都市計画区域	都市計画法	宮崎市、都城市、小林市、高崎町、高城町、三股町、山田町、山之口町、高原町、綾町、国富町、高岡町、末吉町、財部町の3市11町で指定されている。
鳥獣保護区	鳥獣保護及び 狩猟に関する法律	宮崎市、都城市、小林市、えびの市、国分市、高原町、綾町、高岡町、国富町、山之口町、高城町、野尻町、高崎町、山田町、三股町、財部町、末吉町、西米良町、多良木町、須木村の5市14町1村で指定されている。
河川区域等	河川法	

注) 鳥獣保護区は宮崎県鳥獣保護区等位置図(平成12年度)より。

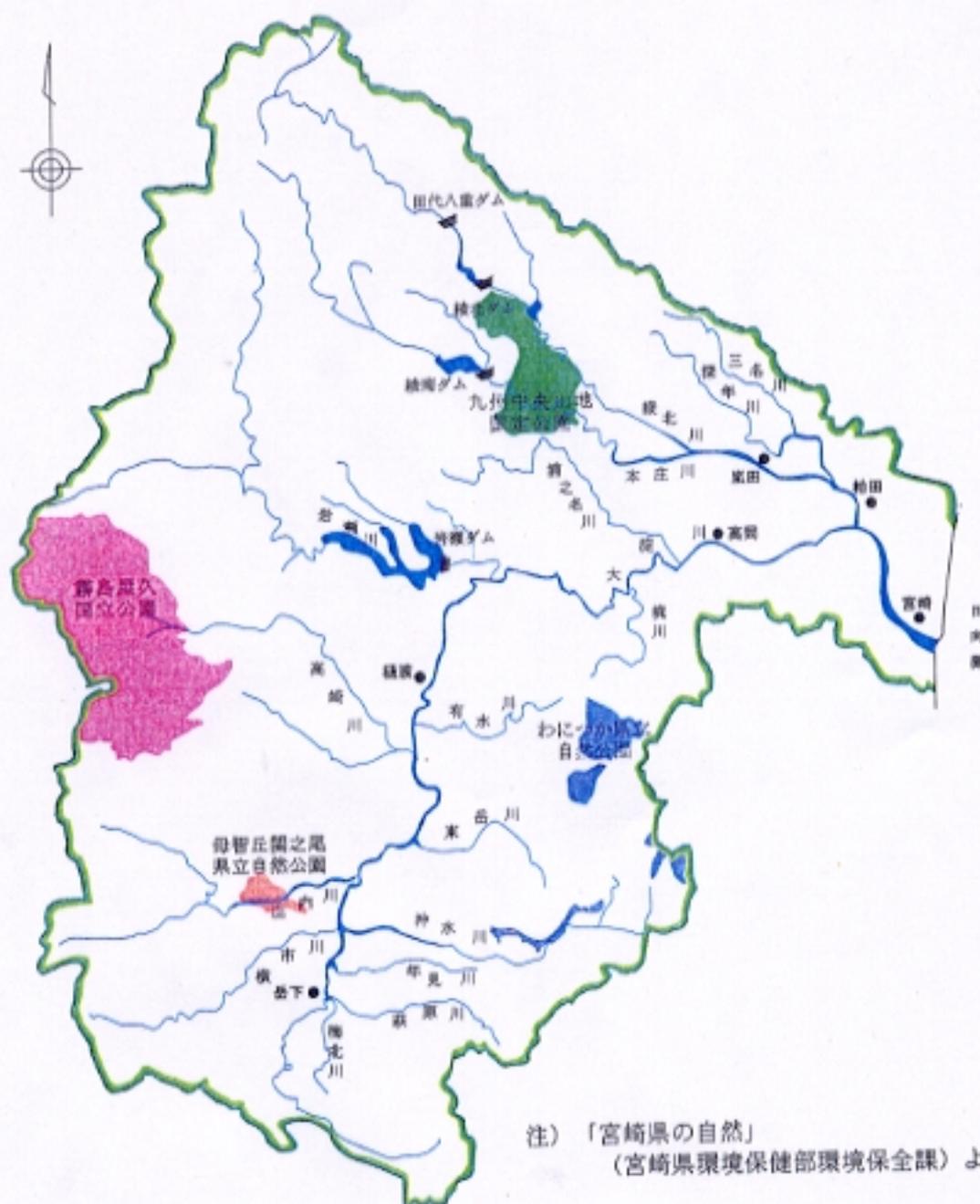


図2-2 自然公園位置図

表2-3 自然公園

種別	公園名	流域内 関係市町村	指定年月日	備考
国立・国定公園	霧島屋久国立公園	えびの市、小林市 都城市、高原町	S 9. 3. 16 特別保護地区 S42. 3. 23	25座の集成火山、暖帯多雨林 ミヤマキリシマの大群落。
	九州中央山地 国定公園	須木村、綾町 西米良村	S57. 5. 15	原生林のすぐれた自然景観と 豊かな動植物、歴史的文化的財 資源に富む。
県立自然公園	母智丘・関之尾 県立自然公園	都城市	S33. 9. 1 特別地域 S46. 2. 5	滝と甌穴、桜並木
	わかいか 県立自然公園	宮崎市、田野町 三股町、山之口町	S36. 3. 31 枕蓑の特別地域 S41. 12. 24	山頂展望、溪谷、滝



霧島屋久国立公園



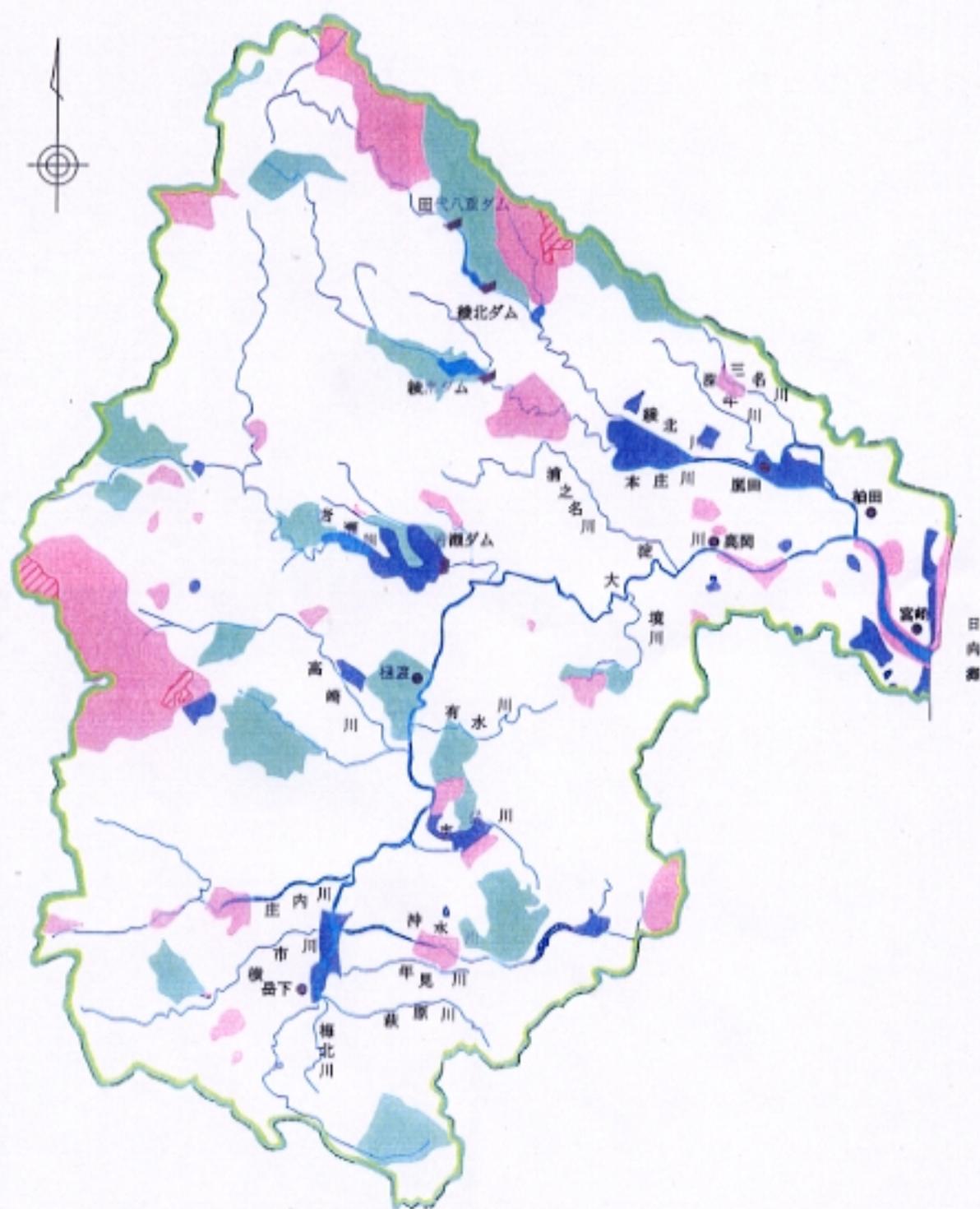
九州中央山地国定公園



母智丘・関之尾県立自然公園



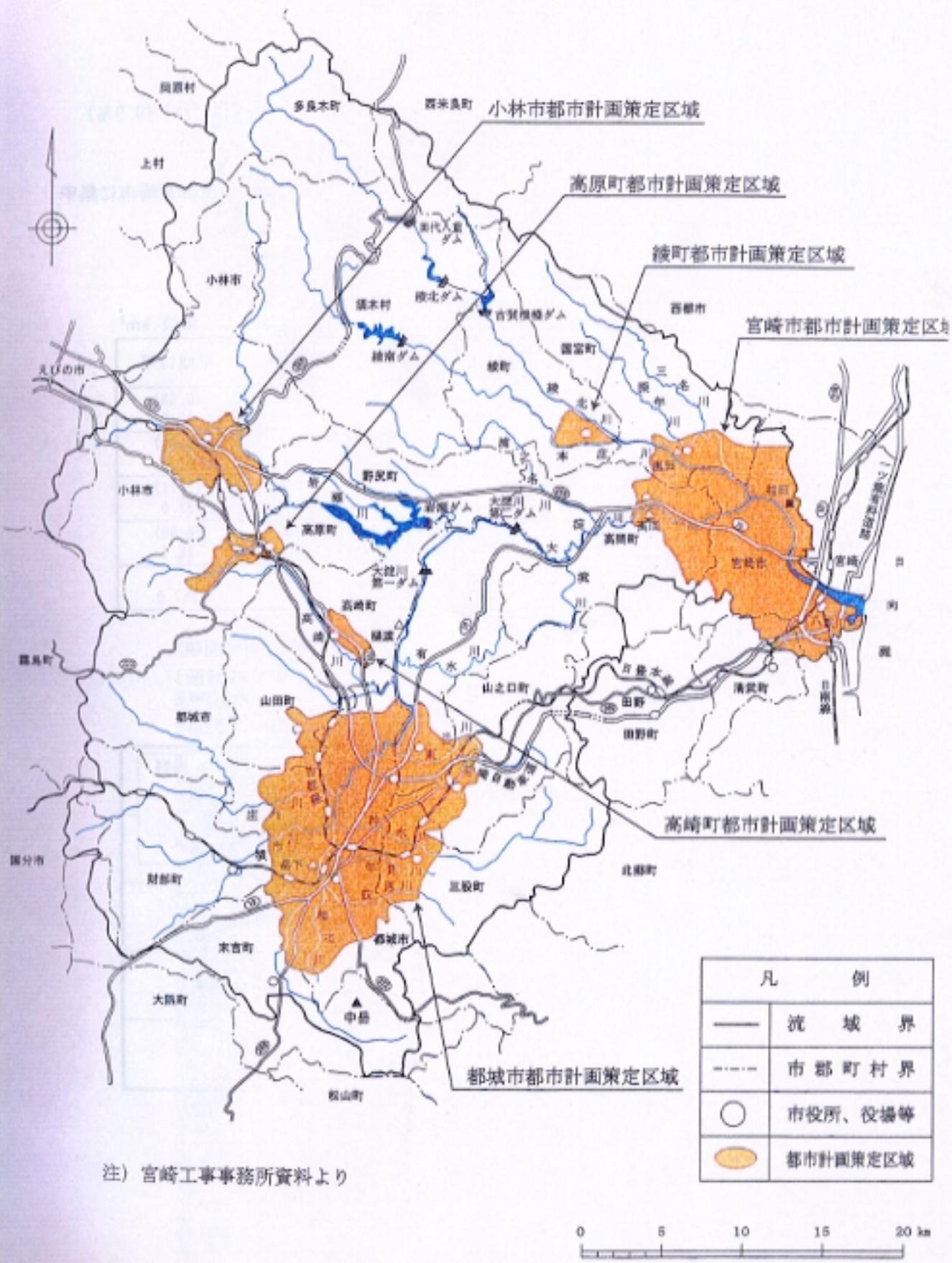
わにつか県立自然公園



注) 平成12年度鳥獣保護区等位置図より

凡 例	
	鳥 獣 保 護 区
	特 別 保 護 地 区
	休 猟 区
	銃 猟 禁 止 区 域

図2-3 鳥獣保護区指定区域図



注) 宮崎工事事務所資料より

図2-4 大淀川流域に係る都市計画の状況図